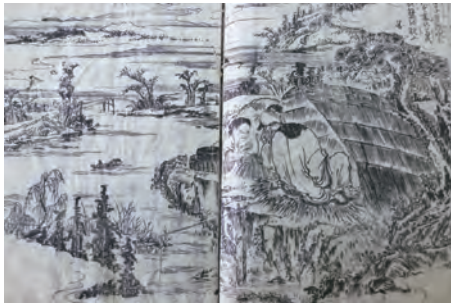


# 「殺生石」物語考

物語の概略 ④

我が子伯邑考の塩肉を喰つて見せた西伯侯姫昌(周の文王)は、虎口を逃れて岐州に戻り仁政を行う。彼は、罪を冒す者があれば、地面に描いてこれを牢とし、木彫りの牢守を置いてこれを牢番とした。囚人は皆、彼の徳に伏して逃げることはなかった。また、夫役の代価をきちんと賜る姫昌のために、州民はこぞつて、父母のために働くごとく働いた。

やがて、国が富み、彼の威風が盛んになるにつれ、諸臣は、子息伯邑考の仇を取り、天下万民のために、紂王と妲己の、殷王国を亡ぼすよう進言する。が、



子牙釣する図

紂王には未だ百万の大軍があり、妖術を使う妲己がいた。姫昌はある夜、一匹の熊が飛来して傍らに待す夢を見る。側近の散宜生が、姫昌を助ける賢人が現れる吉兆だと進言する。この頃、奥深い領内の碓溪という所に、終日釣り糸を垂れている老人がいた。しかし、その釣り針は真つ直ぐで、餌もついていない。呆れ果てる妻に、自分が釣るのは、世に二人といない名君であつて、魚などではないと話すが、妻は愛想をつかして夫の元を去る。彼の姓名は姜(または呂)尚。呼び名は子牙、号を飛熊と称した。子牙は、鬼神をも役し、雲を呼び雨を招く奇術に達して、胸には知識大才を秘める七十歳の老人であつた。姫昌は数度碓溪に足を運び、飛熊の号を知るに及んで、この老人こそ夢に現れた人物であり、先祖の太公が、出現するのを持ち望んでいたという、その賢人だと悟る。姫昌は彼を太公望と名付け、大軍師として迎えた。姫昌は薨じる時、長子姫発(後の周の武王)に、太公望に師事するよう遺言する。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

少子化は緑なきようす野の猿の  
家族らしきが群れて横切る

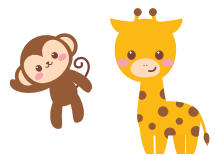
## かつこう

実家の裏には竹やぶがあり、母はこの時期せつせとたけのこを掘つては庭で火を起こし、大きな鍋で湯がいてあく抜きをする。たけのこをひとつだけ持たせてもらつて両腕に抱え、猫車を押す母の後を、長靴をカポカポ鳴らして追いかけた幼い頃の記憶。光が差し込む竹やぶの向こうに、懐かしい日常がまぶしく蘇る▼

家事野菜を作るだけの実家だが、農家民泊の許可を取り、今月から都会の学生の受入れを始めるという。本紙3月号「きらり!」まちの主役」を読んで農家民泊に興味を持ち、翌日には町農業公社に相談をした。わずか2か月で、許可を取り受入れ農家の交流会や説明会に参加し、準備は万端だ。学生たちと一緒に掘ることを楽しみに植えたじゃがいもも小さな芽を出した▼昨年設立した町農業公社は、需要が増えて

いる農家民泊の受入れを支援しており、保健所等への申請の代行や相談業務を行う。受け入れた分収入を得られるので農家の懐も潤うし、農家の日常に目を輝かせる学生たちの笑顔はきつと、地域に活気をもたらすだろう▼夏になったら長靴を履いて、猫車いっぱい獲れたじゃがいもを運ぶ学生たちのまぶしい笑顔写真を収めてこよう。農村の活気と、学生たちを喜ばせようと張り切る母を応援したい。

## こんにちは 赤ちゃん



人見  
ふみかちゃん  
文香  
(一ツ縦)

平成28年  
7月9日生

父 優平さん 母 明香さん

文香ちゃんは…

おしゃべりと歌うのが  
上手な女の子!すくすく  
元気に大きくな〜れ

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。  
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

## 町の世帯と人口

(4月1日現在・住民基本台帳)  
( )の数字は前年比

・世帯数 10,257世帯(+27)

・人口 25,440人(-48)

男 12,615人(-13) 女 12,825人(-35)

## あなたの「声」を聞かせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。  
お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。